

## 主張

新年あけましておめでと  
うございます。

令和2年は三  
重県保険医協

会にとって飛躍の年にし  
たいとの意味で抱負を述  
べたい。

まず、組織の拡大を図  
りたい。三重協

会は近年会員数  
の減少が加速し  
つつある。200

3年6月1日時  
点に会員数は2  
001人であり、

2013年6月1日時点  
には2004人であった。

このころは2000人を  
維持し、少しずつ増える  
ものと期待されていた。

しかし、この時期が頂点  
で次第に会員数が減り始  
めた。2014年6月1  
日は2002人、201

5年6月1日1978

人、2016年6月1日

1962人、2017年

6月1日1926人、2

018年6月1日191

3人、今年は11月1日時

点までに1865人であ

る。組織拡大のためには

多くの努力を重ねてきた。

7年5月の全会員の平均

年齢は60・5歳であった

が、2018年4月には

60・9歳、2018年11

月61・1歳、2019年

11月61・5歳に達してい

る。高齢者の退会を食い

止める方法は見つからな

い。そうなれば若い会員

的であると考えられる。

若い開業医の勧誘には

新規開業医講習会の場

で、より積極的に働きか

ける必要がある。勤務医

非会員への勧誘の成果は

今のところ上がっていない。

2019年度から研

修医会員制度を新設し

い。三重協会を保団連お

よび各協会に宣伝するた

めに今後の保団連医療研

究フォーラムの主務地に

名乗りを上げたい。三重

県保険医協会医療研究

フォーラムは本年15回に

達した。この会は保団連

医療研究フォーラムの主

務地を三重協会

が引き受けた翌年

に開始した。三重

協会の主務地での

成果は大きかった。

今年の保団連医

療研究フォーラム

は大阪で行われた。来年

は盛岡で開催の予定であ

る。大協会は盛大な会が

開催でき、小協会には地

方の特色を活かした会が

行える。この際、協会内

のコンセンサスを得て経

済的および人員的な蓄え

の準備に取りかかりたい。

# 令和2年の抱負、組織拡大、若返り、 保団連医療研の主務地を目指す

にもかかわらず減少に歯

止めがかからない。何と

かしてこのカーブを緩や

かにしたい。できれば上

向きにしたいものである。

減少の理由は死亡退会で

ある。次には加齢による

閉院である。会員の高齢

化が進んでいる。201

の入会を積極的に推進す

るしかない。

近年の入会理由の内

訳では共済制度による魅

力が第一である。会員数

を増やし、若返りを図る

には共済制度の魅力を勤

務医や若い世代の開業医

に宣伝していくのが効果

た。卒業後5年以内の

研修医に対して会費を月

額500円に抑え積極的

に勧誘する制度である。

この制度により研修医が

増えれば、やがて勤務医

の正会員が増え開業医も

増えるはずである。

もう一つ抱負を述べた